

テレビ局大幹部と元官邸秘書官

「この問題は君が損するだけだ。メディア全体が悪なんだから」(元秘書官)

上杉隆氏による、本誌スクープの反響が鳴り止まない。野中広務氏いわく「官房機密費を政治評論家に配った」。そして、カネは大新聞やテレビの記者にも流れていた――。官房機密費の配布先リストに掲載された政治評論家を直撃した前号に続き、機密費汚染の源泉ともいえる「記者クラブ」のタブーに迫る。

「リストを見せてくれ」

本誌前号が発売された5月17日の朝、私の携帯電話が鳴った。発信元は、テレビ局の大幹部だった。何事かと身構えて電話に出ると、用件は意外なことだった。「リストを見せてくれ」

挨拶もそこそこに、彼は私に懇願してきた。

「ウチの局で使っている評論家やコメンテーターが該当しているかどうかチェック

クしなければならぬ。協力してもらえないか」

そういい、私が持っている官房機密費の配布先リストを求めてきたのだ。

実は私の手元には、前号で紹介した3枚のメモ以外にも、機密費の配布先リストを記した多くのメモがある。そして、現在も鋭意、取材中だ。

ただし、前号で述べたよ

うに、メモに名前が掲載されていたとしても、即座にその人物が受け取っていたという証拠にはならない。慎重な精査を経て、反論権も担保した上で公開するべきものだ。

私は当然、見せることを拒んだが、彼はなおも食い下がった。

「何人か名前を挙げるから、該当するかしないかだけ言ってください」

ハイ、イエエで答えるだけではないという。私は渋々応じた。彼が、テレビによく登場する著名な言論人の名前を挙げる。私はそのたびに、「ハイ」「ハイ」「ハイ」「ハイ」と肯いた。彼のうなだれた様子が、電話越しにも伝わってきた。ちなみに、似た内容の電話は、他

局の幹部からもかかっている。

受け取る側が大慌てなら、渡した側も大騒ぎだ。元官邸秘書官もまた、発売当日に電話を寄越してきた。

「この問題は本当に厳しいぞ。そもそもメディアの幹部連中が(機密費を)もらっているんだから。追及しても、君が損するだけだよ。どうやって無理なんだよ、メディア全体が悪なんだから」

私に怯えるテレビ局幹部

官邸に売られた記者メモ

懇談記者メモというものがあつた。官邸などで開かれる表向きの会見とは別に、内閣関係者らが夜回りの記者たちに、主にオフレコを

と、私を心配する元官邸秘書官の言葉は、実は表裏一体にある。ともに、記者クラブメディアと、官房機密費の深い関係を知った上での発言だからだ。

ある若手の全国紙記者は最近、私に「官房機密費はアンタツチャブル」といい切った。紙面化するどころか、社内口に出すのものはばかられるほどだという。なぜか。新聞・テレビこそ、機密費という魔物に掬め捕られた張本人だからだ。

条件に語った内容を記したメモのことだ。

現場の記者たちは、オフレコといいつつ、実際にはICレコーダーに録り、書